

コラム 41 張作霖爆殺事件

これを計画したのは、関東軍高級参謀、河本大作大佐だといわれているが、彼の手記と言われる「私が張作霖を殺した」(文芸春秋・昭和 29 年 12 月号)にも疑念が持たれています。なぜなら、この手記は河本の自筆ではなく、義弟で作家の平野零児が口述をもとに筆記したといわれており、平野は戦後、中共の強制収容所に長くおり、マインドコントロールされていた可能性があるのです。平野は昭和 31 年に帰国しているが、河本自身は中国の太原収容所で昭和 28 年に獄死しています。

毛沢東と中国共産党の暗部を描いた話題の書「マオ―誰も知らなかった毛沢東」(ユン・チアン、ジョン・ハリデイ共著)によると、ソ連が日本軍の犯行に見せかけて行った謀略事件だと書いています。この本によると、「張作霖爆殺は一般的には日本軍が実行したとされているが、ソ連情報機関の資料から、最近明らかになったところによると、実際にはスターリンの命令に基づき、ナウム・エイティゴンが計画し、日本軍の仕業に見せかけたものだ」と、記述されています。事実、この当時、張作霖はソ連の意に反する行動をとるということで、スターリンから怨まれていました。

また、当時詳細に調査したリットン報告書においても、「張作霖爆死事件は神秘的な事件である」と報告されています。さらに、近年出てきた当時のイギリス情報部の資料によると、「関東軍もかんだかもしれないが、ソ連が事件の当事者であった」という結論が出されており、これらのことが事実であれば、「マオ―誰も知らなかった毛沢東」の説が、有力になると考えられます。